

パネルディスカッション

3. FFR-CTの問題点と心筋シンチの可能性

小倉記念病院 循環器内科
山本 航

ISCHEMIA試験ではInitial invasive strategyのclinical benefitが示されず、2022年に「安定冠動脈疾患の診断と治療」ガイドラインがアップデートされてから、冠動脈疾患の診断フローおよびどのような患者に対して侵襲的冠動脈造影を勧めるべきかについて活発な議論が行われている。現在のガイドラインでは、検査前確率および臨床的尤度に応じて冠動脈CTもしくは心筋SPECTを中心とした負荷イメージングが推奨されている。一方近年登場したFFR-CTに関しては現状のガイドラインでは補助的な扱いではあるが、多くのpositive dataが発表されており、冠動脈CT、心筋SPECT、FFR-CTをどのように使い分けていくかが実臨床の問題点となっている。本講演ではこの3つのmodalityのメリットおよびデメリットをこれまでのdataに基づいて考察し、侵襲的冠動脈造影を勧めるべき患者の診断フローを考え、FFR-CTの問題点やSPECTの可能性に関して言及したい。

略歴

2014年 佐賀大学医学部医学科 卒業
済生会福岡総合病院初期研修医
2016年 済生会福岡総合病院循環器内科
2019年 京都大学大学院医学研究科循環器内科学
2023年 小倉記念病院循環器内科

現在に至る

■所属学会・資格：

日本循環器学会専門医、日本内科学会認定医